



## 化学プラント躍進 のかけに

Background of  
Progressing Chemical Plants

最近の石油化学や合成化学工業の進歩は目覚しく、新製品開発のために、厳しい技術の挑戦が行なわれている。これら合成プロセスにはポンプから反応装置まで多岐の製造設備があり、そのうちでも分離精製設備の主流をなすのが精留プラントである。これは目的物質の個有の沸点の差を利用して分離精製するもので、精留塔の内部ではガスと液体とが良好に接触するように設計製作されなければならない。日立研究所では昭和36年に写真のような研究用大形精留塔を設置し、塔内構造の開発や、精留塔の経済的な安定運転を行なわせるための、自動制御の研究に努力が払われている。そしてその成果は今日のTOプラントやエチレン精製プラントに適用されており、また、さらには今後の化学プラント総合技術の発展に貢献するものである。 (日立製作所 日立研究所)